

生ごみ処理

って何のためにやっていますか？

燃やすゴミを減らして地球にやさしいことがしたいから。

生ごみは水分が多くて燃えにくいので、燃やすためには大量の化石燃料を使います。また、低温で燃やすことはダイオキシンの発生の問題がありますから、高温で焼却する必要があります。燃やすゴミにおける生ごみの割合が高ければ高いほど、焼却にかかる負荷が大きくなって、結果として燃料や税金がたくさん使われることになります。生ごみを家庭で処理して土に還せば、燃やすゴミの量を減らすことができます。微生物が生ごみを分解するちからを上手く利用すれば、余計な燃料やお金を使わず、環境汚染もしくすみます。

おいしい野菜やキレイな花を育てる肥料にする。

今、多くの土壌に必要なのは有機肥料です。なぜなら、健康な土壌をつくる

るのは微生物。良い微生物が土の中にたくさんいてくれるおかげで、土がふかふかになって、作物が元気に生長できるからです。微生物が増えるためにはエサとなる有機物が必要ですが、化学肥料は微生物のエサにはなりません。残念ながら、雑草をきれいに取り除き、化学肥料しか入れていない畑の土の中では、微生物が減り、その他の生き物も減って、土は硬くなり、貧弱な作物しか育たなくなっています。

このような畑の現状を考えてみると、生ごみは貴重な有機物資源だと思えてきませんか。有機物を必要としている場所があるのに、わざわざ苦労して燃やしてしまうなんてもったいないですよ。生ごみを肥料にする方法はいろいろありますが、EMを使えば肥料成分が多くて高品質の生ごみ肥料ができあがります。



EMが目指すのは
資源循環型の社会

EMの哲学は、マイナスのことをゼロにすることではありません。EMはマイナスからプラスに転換することができるといえます。EMで発酵させた生ごみ肥料は、畑の土にもともと居た有用微生物のはたらきも活発にして土壌を改善します。現在の多くの土壌は腐敗型になっています。発酵を促進する有用微生物が増えた土壌になれば、健康に良い野菜ができ、人間の健康増進にも貢献します。作物だけでなく花を育てれば、花を愛でる感性豊かな心を養うことにつながります。そして、野菜くずや枯れた花などは生ごみとしてまた資源となって循環ができ上がります。単に同じところをぐるぐると回る循環ではありません。回るたびにますます環境が良くなり、健康で幸せが増えていく循環です。

コラム

生ごみ処理の方法はどっちが良い？

有機物を発酵分解する方法は2通りあって、酸素を使う（好気発酵）タイプと酸素を使わない（嫌気発酵）タイプがあります。好気発酵は、嫌気発酵に比べてスピードが速く、見た目にも量が減ります。その代わり、肥料成分も大幅に減ってしまいます。嫌気発酵は、時間をかけてゆっくりと進み、量はあまり減りません。その代わり、肥料成分はたっぷり残っています。

生ごみ処理には、一般的に酸素を使うタイプの微生物がよく用いられます。それは酸素を使わないタイプの微生物は、ほとんど腐敗菌だからです。現在の環境では発酵菌よりも腐敗菌が優勢なので、生ごみを袋に入れて放っておくと腐って悪臭が発生します。そのため、腐敗しにくく扱いやすい好気発酵の方法を選ぶ場合が多いのです。EMによる生ごみ処理は、腐敗させずに肥料成分の多い嫌気発酵ができるという稀な利点を持っています。

EMの生ごみ処理で
幸せがどんどん増える。